



私が乗る釧路行の列車は2番線発ですが、1番線には石北本線の上り一番列車が入ってきました。この型の気動車は、JR 北海道の標準になりつつあります。



私が乗る列車は「**列車**」といいながらも、1両だけなので「**車** (しゃ)」でした。



車内は片側2列、片側1列で、座席数は少ない印象です。乗車時刻には、ホーム一杯に乗客が待っていま

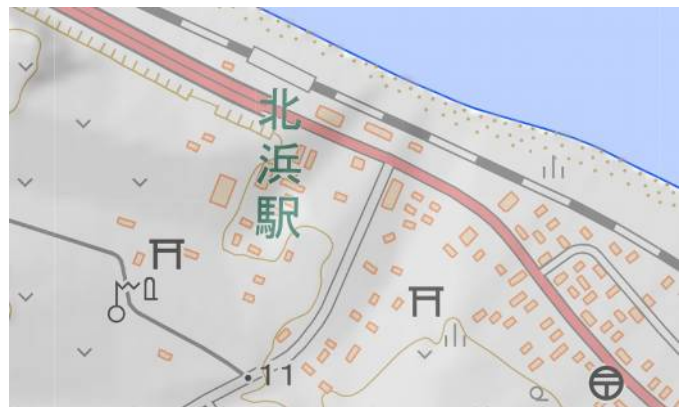
したが、私はやっとこさっとこ左側に座れました。左側にしたのは「オホーツク海」を見たかったからです。



この列車は座席のカバーがとてもかわいいです。北海道の動植物がデザインされています。このままタオルハンカチにした商品があったら、絶対に買います。



車窓からは「狙い通り」オホーツク海が見えました。オホーツク海 (Охóтское мо́ре) は、北海道、樺太 (サハリン)、カムチャッカ半島、千島列島に囲まれた海域名です。日本の地名 (正確には海域名) では、唯一ロシア語がそのまま使われています。特急「オホーツク号」からは一度もオホーツク海が見えませんが、ここまで直通すれば乗客も大いに喜ぶでしょうね。



(国土地理院地形図)

「オホーツク海に一番近い駅」は北浜駅です。地図

を見ても、ほとんどオホーツク海の砂浜に駅があるように見えますが、実際にそれに近い立地の駅です。



「釧網線車窓より斜里岳」(画；C.Tanaka)

釧網本線は景色の良い路線です。オホーツク海の反対側にも湿原や湖、ハマナスの群落、それに秀麗な山容の「斜里岳（しゃりだけ）」が望めます。「シャリだけ」というのは、アイヌ語で「ごはんだけのおにぎり」という意味・・・では絶対にはないと思います。



北浜の次は「原生花園（げんせいかえん）」という駅です。初夏から秋までの臨時停車駅です。名の通り、花に囲まれています。ちょっと途中下車したかったのですが、この列車を捨てると釧路着が4時間も遅れるので、今回はあきらめました。



「原生花園駅」(画；C.Tanaka)

かつての原生花園駅には、斜里駅（しゃりえき）から駅員が派遣されていて、切符型のキーホルダーや、絵入りの記念入場券を売っていて、列車乗客やドライブの観光客でごった返していました。今はそういう風景も見られなくなりました。



「原生花園駅の入場券キーホルダー」(当方所蔵)



次が「浜小清水」です。「浜」とつくのは、内陸の「小清水」の街と離れていて、海沿いに駅があるからです。次の「止別」はいわゆる難読駅名の一つです。普通なら「しべつ」と読むでしょうが、実際は「やむべつ」と読みます。



網走から30分ちょっとで「知床斜里」に着きました。以前は単に「斜里」でしたが、知床観光の根拠地ということをアピールする為に、「知床」をつけたのです。実際に当駅からは、知床半島のウトロ行のバスも出ています。山岡久乃さん主演の「かあちゃんの黄色いトラック」というドラマにも登場した土地です。